栃木県立足利工業高等学校の部活動に係る活動方針(2025年度)

<p>目標</p>	<p>○部活動は、学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校の教育活動の一環として実施するものであることから、活動する生徒が部活動をとおして余暇を有効に活用して心身を鍛え、充実した学校生活を送ろうとする主体的な態度を養う。</p> <p>○部活動をとおして、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等の望ましい人間関係の構築を図るとともに、学習意欲を向上させ、自己肯定感、責任感、連帯感を育成する。</p> <p>○部活動の実施に当たっては、所属する生徒の技術・競技力の向上を図るとともに、部活動をとおして個性を伸ばさせ、自ら選択した競技等を生涯にわたって楽しむ意欲と態度を養う。</p> <p>○安全管理を徹底し、活動中に起きた「ヒヤリ・ハット」事例を共有して安全対策を講じるなど、学校全体での意識高揚を図りながら、生徒が安心安全に参加できる部活動運営を行う。</p>
<p>休養日</p>	<p>○原則として、週当たり2日以上以上の休養日を設ける。その際、できるだけ、週末（土曜日及び日曜日）の少なくとも1日を休養日とする。週末に、大会参加等で休養日が確保できない場合は、休養日を他の日に振り替える。</p> <p>○中学生より心身が発達している生徒が、本校の部活動での活動を自ら選択し、入学者選抜を経て入学してきたことを踏まえ、本校の実情、競技種目、分野、活動目的等に応じて、週当たりの休養日については、原則として示された日数よりも少なくすることも可能とする。その際も、できるだけ、週末のいずれか1日を休養日とする。</p> <p>○長期休業中は、学期中に準じた扱いを行う。</p>
<p>活動時間</p>	<p>○1日の活動時間については、本校の実情、競技種目、分野等の特性などに応じて適切に設定する。生徒の健康管理に十分に配慮し、学校生活や授業等に支障のない範囲で、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。</p> <p>○原則として、平日の活動は2時間程度とし、休業日の活動は3時間程度とする。</p> <p>○本校の実情、競技種目、分野、活動目的等に応じて、休業日の1日の活動時間については、原則として示された時間よりも長くすることも可能とするが、できるだけ合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。</p> <p>○定期試験初日の1週間前から定期試験実施期間(最終日を除く)は部活動を行わない。ただし、当該期間において、大会等参加によりやむを得ず活動する場合は、事前に校長に申し出て承認を得る。</p>
<p>設置する部活動</p>	<p>【運動部】 野球部、ソフトテニス部、卓球部、サッカー部、バスケットボール部、レスリング部、バレーボール部、ハンドボール部、陸上競技部、剣道部、ソフトボール部、弓道部、バドミントン部</p> <p>【文化部】 機械研究部、電気システム研究部、産業デザイン研究部、吹奏楽部、茶華道部</p>
<p>大会参加</p>	<p>各部等が参加できる大会は次のとおりとする。ただし、参加に当たっては、生徒の健康面及び学習面について十分考慮するとともに、保護者の経済的負担を配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県高等学校体育連盟、県高等学校野球連盟、県高等学校文化連盟が主催・共催・後援する大会 ○県スポーツ協会加盟の競技団体が主催・共催・後援する大会 ○事前に校長が参加を許可したその他の大会等
<p>部活動の運営</p>	<p>(1) 生徒の健康・安全への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部活動顧問は、生徒はまだ自分の限界や心身への影響等について十分な知識や技能をもっていないことを前提として、計画的な活動により、各生徒の発達の段階、体力、修得状況等を把握し、無理のない練習となるよう留意するとともに、生徒の体調等の確認、設備・用具等の定期的な安全確認、事故が起こった場合の対処の仕方の確認、医療機関等への連絡体制を整備する。 ○部活動顧問は生徒の活動に立ち会い直接指導することを原則とするが、直接練習に立ち会えない場合は、他の教員と連携・協力し、あらかじめ部活動顧問と生徒との間で約束された安全面に十分留意した内容や方法で活動させ、部活動日誌等により活動内容を把握できるようにする。 ○部活動顧問は、天候の急変などに備えあらかじめ代替案を準備し、活動時の気象情報を確認して、危険と判断される場合には、ためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずる。また、熱中症事故を予防するために、水分補給や健康観察を適切に実施する。 <p>(2) 体罰等の禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部活動顧問は、いかなる理由があっても、部活動の指導において体罰等を厳しい指導として正当化することは誤りであり、決して許されないものであるとの認識をもち、体罰等のない指導に徹する。 <p>(3) 保護者の理解と協力を得た活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の理解と協力は、部活動の運営上欠かすことができないことから、部活動顧問は、活動の目標・方針、休養日、1日の活動時間、活動内容等について、保護者に周知する。 <p>(4) 地域や関係機関との連携重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域や関係連携との連携を重視し、地域とともにある学校づくりを目指す。